

令和2年

第22回教育委員会会議 議事録

秋田県教育委員会

令和2年第22回教育委員会会議 議事録

- 1 期 日 令和2年12月24日 木曜日
- 2 場 所 教育委員室
- 3 開 会 午後2時
- 4 閉 会 午後2時45分
- 5 出席者 教育長 安田 浩幸
委員 岩佐 信宏
伊藤佐知子
大塚和歌子
伊勢 昌弘
吉村 昌之

- 6 説明のための出席者
教育次長 小西弘紀 教育次長 石川政昭
総務課長 片村有希 高校教育課長 伊藤雅和

- 7 会議に付した事項
議案第38号 第七次秋田県高等学校総合整備計画【後期計画】について

- 8 可決した事項
議案第38号 第七次秋田県高等学校総合整備計画【後期計画】について

- 9 報告事項
・令和3年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況（11月30日現在）

- 10 会議の要旨

【安田教育長】

それでは、ただいまから令和2年第22回教育委員会会議を開催いたします。
本日の議事録署名員は、3番大塚委員と4番伊勢委員にお願いします。

【安田教育長】

はじめに、議案第38号「第七次秋田県高等学校総合整備計画【後期計画】」について、高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

議案第38号「第七次秋田県高等学校総合整備計画【後期計画】」説明概要

- ・平成28年度から10年間を対象とする第七次秋田県高等学校整備計画を作成し、推進してきた。今回は令和3年度から令和7年度までを対象とする後期計画である。

【安田教育長】

ただいまの説明について、質疑等ございませんか。

【伊勢委員】

資料3ページの③多様な生徒に応じた教育の推進ですが、その中で、「単位制による教育課程の導入」とありますが、単位制については、資料6ページに「決められた単位を修得すれば卒業が認められる仕組み」とあり、さらに資料10ページでは「学校外における学修の単位認定」の記載があります。これは、必要な単位を学校や大学で修得した場合は、例えば2年で卒業することも可能ということでしょうか。

【高校教育課長】

単位制と申しましても、卒業に必要な単位数を修得しなければならないので、2年次で卒業することは、あまり現実的ではないと思います。ただ、資料10ページに記載のとおり、例えば大学の講義等を受講した場合や、学校外でのボランティア活動やインターシップ等に参加した場合も卒業単位として認定します。よって、3年間の学修とはいえ、密度を濃くすることは可能だと思います。なお、単位制の高校は鹿角地区で令和6年度に統合校として開校します。

【岩佐委員】

由利本荘にかほ地区についてです。先月、このエリアの高校の関係者や地域住民が学校を存続させようと、魅力アップのための寄付の募集などをしておりました。その方たちと色々話す中で、山形県酒田市の私立高校が本荘地区やにかほ地区にスクールバスで迎えに来て、生徒を大勢連れて行くのだということを聞きました。以前にも教育委員会でお伺いしたことがありますが、その後、状況をどう把握していますか。もちろん、学校を選ぶのは子どもたちですが、何か対策というものは考えていますか。

【高校教育課長】

たしかに酒田市の私立高校がスクールバス等を活用して交通の便を図っていることは聞いております。毎年、ある程度の人数が象潟やにかほの辺りから酒田市の私立高校に通っていることは事実です。ただ、一時からは、その流れは収まってきているのではないかと思います。やはり、魅力ある学校づくりということで、地元の生徒たちが地元に残って学習したいという気持ちを高めていく必要があります。学校の再編整備を検討していく中で、それぞれの学校の魅力化を進めていかななくてはならないと考えております。普通科の特色化を含めて、今ある学校が普通科と専門学科でこういった特色を出していけるのか、工夫しながらやっていかなければならないと思います。

【岩佐委員】

ちなみにこういった動機で酒田市の私立高校に通っているのでしょうか。また、大体どのぐら

い的人数が通っているのでしょうか。

【安田教育長】

通っている人数などは分かりますか。

【高校教育課長】

今年の春時点ですが、12名通っています。

【安田教育長】

酒田市の私立高校の学校名は分かりますか。

【高校教育課長】

酒田南高校です。以前は2校ありましたが統合して1校になりました。

【安田教育長】

酒田南高校に特色ある学科などはありますか。

【高校教育課長】

普通科以外の学科もあると思います。また、部活動にも一生懸命取り組んでいるようです。

【大塚委員】

総合整備計画は、素晴らしい方向性を示していて、ありがたいと思っています。前期の計画では、能代地区に能代松陽高校が開校しました。地域に根ざした非常に良い校風の学校になっています。次に能代科学技術高校ですが、数年前学校統合の話が出た際に地域住民説明会が市民文化会館でありました。当時、私は地域の中学校のPTA役員で出席しておりました。多分本当に最初の説明会だったと思います。能代西高校がなくなることが地域経済に及ぼす影響などについて、住民サイドからは、場所の移転は困るのだといった強い口調の発言があり、県教育委員会からいらしていた方とのやりとりでは、少し心が痛みました。学校という存在は本当に大きいと思います。数年後、校名のことでは色々なご意見がありましたが、現在は落ち着き、洗練されたデザインの校章も決まり、希望に満ちた未来が待っているといったところです。今後も学校統合などは、地域経済にも市民活動にも関係しますので、地域で説明会をする時は、こうすることで何を一番大切にしているか、こうするとよりよくなる方向へ進むのだと、希望と明るい未来予想図をこれまでの経験と体験をいかして説明し、進めていってほしいと思います。

【高校教育課長】

おっしゃるとおりです。能代科学技術高校のことでも様々なご意見が昔から寄せられておりました。比較的、両校の方々からは前向きなご意見をいただいたのではないかと考えております。本県の場合は、廃校ではなく統合という形で取り組んできていますので、学校がなくなるということではありませんが、新しい学校になるということで、同窓生や地域住民、昔から地域の学校に愛着を持っている方々は、やはり寂しいという気持ちを持っていると考えております。たしか

に子どもたちが学校に通ってきて、そこで生活しているということが地域経済活動に影響を与えている面もあります。やはり、大塚委員からご指摘があったように最も大事なことは何かを考えていかなければならないと思います。まずは、学ぶ子どもたちを一番に考えなければならず、高校教育を受ける地元の子どもたちにとって、学びがより意味のあるものになるようにしていかなければなりません。我々はよく「活力ある学校」という言葉を使いますが、その意味でも、ある程度の集団の中で切磋琢磨し合いながら部活動にも取り組み、学科と学科が融合しつつ、お互いに刺激し合いながらやっていく中で、地域で残すべきもの、あるいは一つにすべきものがあると思います。これが各地域で協議会を設ける趣旨でもあります。我々の考え方と地域の考え方を時間をかけてすりあわせをしながら、ずれがないようにしていきたいと思っております。

【吉村委員】

資料13ページに(4)職員の資質能力の向上を図る研修の推進とあります。不祥事が非常に多く、わいせつ行為で免許失効した教員の氏名や処分理由を官報に載せるなどのニュースも最近ありました。子どもを教えていく立場の方々ですので、当然入っていると思いますが、道徳心や倫理を学ぶ機会を研修の中に入れてほしいです。子どもに学ばせるための先生方の研修がメインとなると思いますが、年々不祥事の事案が多くなっていることも事実ですので、教職員本人の道徳心や倫理を学ぶ研修を取り入れて、強めていってほしいです。

また、資料35ページに「六郷高校については、全県唯一の福祉科を有し」とありますが、この目的や地域における役割、福祉科を卒業後した先の目標は何でしょうか。

【高校教育課長】

まず、不祥事防止の件です。我々も真摯に受け止めて不祥事防止に努めていかなければならないと考えております。資料13ページの改善方策①キャリアステージに応じた研修の充実として、「秋田県教育育成指標に示されている各キャリアステージに応じた基本的な資質能力を活用」とあります。当然、教員の資質向上を図っていかなければいけないと思っておりますし、各学校では不祥事防止研修に力を入れております。我々もマンネリ化しないように対応していきたいと考えております。

次に六郷高校ですが、介護福祉士の養成ということで、頑張っております。ただ、介護福祉士の資格の認定基準が10年ほど前に変わりました。高校を出た段階で初任者研修を終了する制度があり、六郷高校のように介護福祉士の受検を目指す学校は、単位数を多く取らなければならず苦しい状況ではありますが、資格取得率はほぼ100%です。国の制度が変わってしまったために高校のカリキュラムは非常に厳しいものがあります。六郷高校は若干定員割れしているものの、一定数の生徒はおりますので、大事にしていきたいと考えております。

【吉村委員】

少子高齢化が進む本県で、介護福祉の道に進む子どもがいるということは、キャリア教育にも関わってくることでありますが、非常にありがたいと思います。単位数の修得が大変ということですが、六郷の一部だけではなく中央地区などにも広がって、その中で専門学校などと連携し、例えば2年の修得期間が1年に短縮となるなど、短期間で実を結ぶようなシステムを構築できれば良いなと思います。

【高校教育課長】

そういったところも検討していかなければならないと思います。

【岩佐委員】

福祉科は重要な学科だと認識しております。素朴な疑問ですが、六郷高校だけに福祉科がある理由は何ですか。他の大きな市町村にもあっておかしくない学科だと思います。例えば行政からバックアップがあるなど、何らかの事情があるのか、参考までに教えてください。

【安田教育長】

学科の設置は何年頃ですか。

介護人材が必要とされていた時代、おおよそ15年くらい前は、かなり人気があったと思います。

【伊藤委員】

六郷高校に特色があまりなく、特色を付けるために設置したのではないかと私は理解していました。

【高校教育課長】

学科が設置された年度について、ただいま調べておりますので少々お待ちください。ただ、地域のニーズも少なからずあったのではないかと思います。

【伊藤委員】

平成高校や増田高校、雄物川高校には特色があったと思いますが、昔の六郷高校にはあまり特色はなかった印象です。あの辺りは商人が多く、先見の明がある人が多い地区ですので、大胆な発想を持ち込んだ人がいたのではと思いました。

【安田教育長】

介護は必ずしも介護学科でというわけではなく、例えば金足農業高校の生物資源化コースの中に介護があります。商業であれば平成高校、農業は増田高校ということで、六郷高校に特色ある介護ができたのではないかと思います。

【高校教育課長】

六郷高校の福祉科は平成15年に設置されています。平成9年に生活科学科の募集が停止になっていますので、生活科学科に代わってということではないでしょうか。

【安田教育長】

特色を出そうと思ったのではないのでしょうか。生活科学科よりも福祉科の方がはっきりと資格に結びつくので。

【岩佐委員】

学科の生徒はどのエリアから来ているのですか。

【高校教育課長】

六郷高校に通っている生徒の出身中学校のデータを見ると、大曲、角館、美郷、象潟中学校からとなっております。ほとんど地区内で、広域から通ってきているというわけではありません。

【吉村委員】

他の県にも福祉科はありますか。

【高校教育課長】

ありますが、同じように国の制度が変わってしまい大変厳しいと聞いております。生徒が集まらないという事情は同じようです。

【安田教育長】

他にございませんでしょうか。

他になければ、表決を採ってよろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【安田教育長】

では、表決を採ります。

議案第38号を原案どおり可決することよろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【安田教育長】

それでは、議案第38号を原案どおり可決します。

次に、報告事項「令和3年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況（11月30日現在）」について、こちらも高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

報告事項「令和3年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況（11月30日現在）」説明概要

- ・11月30日現在の公立全日制、定時制高校及び私立高校の就職内定状況をまとめたもの。
- ・学校からの報告によると、求人票が少なくなっている。未内定者ができる限り少なくなるよう、各学校では、就職支援員やハローワーク等と連携しながら未内定者への支援を行っていく。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する内定取消は今のところはない。

【安田教育長】

ただいまの説明について、質疑等ございませんか。

【岩佐委員】

県内就職希望割合が前年同期比で5ポイントアップは喜ばしいことですが、今のコロナ禍で県外に行くことが怖いと思っていることもあるのではないのでしょうか。その辺りはどのように分析していますか。

【高校教育課長】

コロナの影響によるものなのか、把握しかねている部分はありますが、コロナによる影響も少なからずあると思います。ただ、地元企業の魅力を伝えるということで、学校や地域振興局と協力し、たとえ規模は小さくなくても地域の中にある企業の中で先輩方が非常に頑張っている姿を見て働きがいや、やりがいを見いだしていくことも重要と考えております。

【岩佐委員】

県内就職者が増えて、今後後輩を引っ張っていく良いサイクルで回っていけばいいと思います。

【吉村委員】

ポイントが全てにおいてプラスになっていることは、意外でした。当然ありがたいことではありますが、コロナ禍ということで、今年度より来年度のほうをもっと厳しくなるのではないかと思います。うまくいかない会社もあれば、うまくいく会社もあり、今後選択肢が増えてくることもあると思いますが、県内に魅力があるのか、コロナ禍のせいなのか、それとも子どもたちが希望する就職先を修正して決めたのかは分かりませんが、今年度は採用して来年度の採用はやめようなど、企業側も当然厳しい中での対応となりますので、その辺りを来年度は注意して見ていかなければと思います。

【大塚委員】

高校3年生のお子さんの就職先はどこかという会話で、保護者から小声で東京に行くという話を聞きました。進学でも就職でも保護者が子どもを首都圏に行かせることに対して、ため息をついています。就職先が決まって、東京なのだと小声で伝えてくるところや、大学1年生の子どもがコロナ禍で帰ることもできないし、誰とも会うことができずかわいそうな思いをさせていると話すところに保護者の気持ちが表れています。保護者は皆同じ反応です。それが今年の特徴のような気がしています。

【安田教育長】

他にございませんでしょうか。

予定された案件は以上ですが、他に何かございませんでしょうか。

特になければ、以上で本日の会議を閉じます。

お疲れさまでした。